



大妻多摩中学校

二〇二六（令和8）年度

入学試験問題（第三回）

【国語】

時間 50分

2月2日（月）

【注意事項】

- 1 問題は20ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

1 次の記事を読んで、あとの問いに答えなさい。

これからみなさんは、あたらしい価値観に基づき、あたらしい生き方や考え方を主張し、古い世界を変えていかなければなりません。そしてこのとき必要なのは「あたらしいルール」をつくることです。

世界は、たった一行のルールで変わる。

《中略》

20世紀の女性たちに向けて、あたらしいルールを打ち立てた人物を紹介しましょう。

彼女の名はココ・シャネル。

女子はもちろん男子でも、「シャネル」という有名ブランドは知っていますよね？

あのブランドの創始者が、ココ・シャネルです。彼女は、言葉によつてではなくファッションを通じて「あたらしい女性像」のルールをつくったデザイナーでした。いったい彼女は、どんなファッションをつくり、どんな女性像を提案したのでしょうか？

《中略》世界的な人気を集める高級ファッションブランドの創始者であり、フランスの社交界からハリウッド女優まで、あらゆる（注1）セレブたちを魅了した天才デザイナーであるシャネル。しかし、家柄も、受けた教育も、エリートとは正反對のものでした。1883年、フランスの田舎町に生まれたシャネルは、12歳の時に母親を亡くし、孤児院で育てられます。17歳になり、孤児院を出た彼女は、夜のカフェバーで歌手をしたり、昼には洋品店で裁縫の仕事をしたりしていました。そしてこの洋品店で、エティエンヌ・バルサンという上流階級の（注2）騎士に出会いました。お互いに馬が好きだったこともあり、すぐに意気投合したふたり。バルサンは馬の調教を見るために自分の屋敷に来ないかと誘います。シャネルは、歌手の仕事も裁縫の仕事も辞めて、バルサンについていきました。》

バルサンの立派な屋敷に住み、働くこともせず、おいしいものを食べ、好きなだけ乗馬に明け暮れる日々。かつてあんなにあこがれた、夢のような上流階級の生活を手に入れたシャネル。しかし、彼女の心を支配していった言葉は、「退屈」のひと言でした。

とくにシャネルを奇立たせたのは、屋敷に出入りする上流階級の女性たちです。男たちに媚びを売って、名家に生まれたというだけの理由で偉そうな顔をして、朝から晩までくだらないおしゃべりをして過ごす女性たち。

彼女たちは、みな(注3) コルセットでぎゅうぎゅうにお腹をしぼり上げ、裾を引きずって歩くような長いスカートをはき、頭には大きな羽飾りや果物のついた帽子をのせて、バランスの悪い靴でよちよちと歩いていました。

シャネルにとつて、これらは「男を喜ばせるためのファッション」でしかありませんでした。そもそも、こんなに動きにくい服では、走ることも乗馬をすることもできません。やがてシャネルは自分で服をつくるようになり、とくに彼女のつくる小ぶりの帽子は、屋敷に出入りする女性たちのあいだで大人気になりました。

そしてあるとき、シャネルはバルサンに「自分の帽子店をもちたい」と申し出ます。

バルサンは、それを女性らしい気まぐれだと思いましたが、自分がパリに借りていたアパートの部屋を彼女のために提供します。ファッション・デザイナー、ココ・シャネルが誕生した瞬間でした。

シャネルの信条を、もつともよく表すエピソードがあります。

帽子店が軌道に乗りはじめたとき、シャネルはバルサンの友人でもある実業家のボーイ・カペルと恋に落ちます。そしてカペルの援助を受けたシャネルは、帽子店をパリの大通りに移転します。けれども、彼女は「恋人の援助を受けて生きている」という事実には耐えられませんでした。カペルに「ぼくのこと、愛している？」と聞かれたシャネルは、きっぱりとこう答えたのです。

「それはわたしが独立して、あなたへの借金を返し、ほんとうにあなたと対等になったと思えたときに答えます。あなたの援助が必要なくなつたとき、自分があなたをほんとうに愛しているかわかるはずだから」

さらに数年後、久しぶりに再会したバルサンからこんなことを言われました。

「きみは働いているらしいじゃないか。カペルはきみを養うこともできないのか？」

シャネルは、満面の笑みで答えます。

「^③わたしは誰のものでもない、と言える喜びは素晴らしいわね。わたしの主人はわたしで、もう誰も必要としないし、頼^たってもいいの」

シャネルは、ファッションを通じてなにを訴^{うた}えようとしたのか？

もうおわかりでしょう。彼女は「女性の自立」を、そして「自由」を、ファッションに落とし込んでいったのです。

帽子のデザイナーから出発したシャネルは、それまでのファッション界で常識となっていたルールを次々に破っていきます。女性の中からコルセットで縛^{しば}りつけることをやめ、ゆったりとしたラインの動きやすい服をつくりました。裾を引きずるようなスカートも、膝丈^{ひざたけ}にして歩きやすくなりました。女性用の服にポケットをつけたのも、シャネルが最初です。ごちゃごちゃとした飾りをいっさい取り払い、シンプルで、無駄^{むだ}がなく、着心地のよい服をつくりました。

^④ ためではない、着ている女性自身が喜ぶための服です。

こうしたシャネルの ^⑤ ファッションは、 ^⑥ 時代の追い風を受けて瞬^{またた}く間に世界を席卷^{せつげん}していきます。

この当時、ちょうど第一次世界大戦が ^⑤ 勃^{はっ}発し、働き盛りの男たちはみんな戦争に行^いってしまいました。そのため、女性たちにも働く必要が出てきて、動きやすくてファッションナブルな服が求められるようになったのです。

結果的に、 ^⑦ ファッション業界は「シャネル以前」と「シャネル以後」で完全に二分されてしまいます。伝記作家のポール・モラ^ンは、19世紀までのファッションを葬^{ほうむ}り去^いってしまったシャネルを「皆殺^{みなころ}しの天使」と呼びました。かなり過激な言葉に聞こえますが、それくらいの大革命が起こったのだと考えてください。

その後もシャネルは、 ^⑥ ジャージー素材を使った動きやすいドレスや、 ^⑦ 喪服^{もくふく}にしか使われなかった黒一色のワンピース（リトルブラックドレス）、両手が自由になるシヨルダーベルト付きのハンドバッグ、そして有名な香水「^⑧ シャネルの5番」など、

次々と革命的なアイテムを発表し、世界じゅうの女性を虜にしました。

第二次世界大戦の影響で一時的に休業するものの、1954年に71歳にしてカムバック。社会進出を果たした女性たちのためのスーツ、「シャネル・スーツ」を発表し、87歳で生涯を閉じるまで、現役デザイナーとして働き続けました。

スイスのローザンヌ地方に設けられたシャネルのお墓は、大きな墓石の代わりに、白い花で埋めつくされています。これは生前の彼女が希望したことでした。シャネルは親族にこう伝えていたそうです。

「お願いだから墓石の下に埋めたりしないで。わたしは大きな石の下に横たわるのではなく、自由に動き回りたいの」

独自のファッション哲学で、女性たちを、③ コルセットから解放し、女性たちを自立に導き、自由を与えたココ・シャネル。

彼女は、④ あたらしい洋服をデザインした女性ではありません。

もつと大きな「あたらしい女性像」をデザインした、本物のデザイナーでした。

《中略》

たとえばシャネルは、みずからのブランドについて、こんな言葉を残しています。

「⑨ 時代が変われば『モード』も変わる。どんな『モード』もいつか遅れたものになる。だけど、『スタイル』だけは変わらない」

シャネルの語る「スタイル」は、「ルール」と言い換えてもかまいません。彼女は帽子においても、ドレスにおいても、スーツやハンドバッグでも、いつも「女性たちの自由」というルールをかたちにしていきました。⑩ 世界を変えるルールとは、言葉で書き記さ

れるばかりではないのです。

(瀧本哲史『ミライの授業』(講談社)より)

(注1) セレブ——有名人。また、上流社会の裕福な人。

(注2) 騎士——中世ヨーロッパの、馬に乗る武士。

(注3) コルセット——胸から腰を引き締めて体形を整える婦人用下着。

(注4) 実業家——商工業・金融などの事業を営む人。

(注5) 勃発——急に起こること。

(注6) ジャージー素材——細い毛糸をよく伸び縮みするように編んで作った洋服の生地。

(注7) 喪服——葬式・法事などに着る礼服。

問1 ——線部①「媚びを売って」とありますが、「媚びを売る」と類似した意味を表す慣用表現として最も適切なものを、次のア～

エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 手塩にかける イ ごまをする ウ 水をさす エ 油を売る

問2 ——線部②「小ぶりの帽子」とありますが、シャネルはなぜこのような帽子を考案したのですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア みな同じような果物などのついた帽子では、退屈で面白くないため。

イ それまでの大きな飾りのついた帽子では、様々な活動をしにくいいため。

ウ 上流階級であることを誇張する帽子では、かぶることの責任が重すぎるため。

エ 男を中心とした設計で作られた帽子では、女性には大きすぎて合わないため。

問3 — 線部③「わたしは誰だれのものでもない」とありますが、チャンネルはこの言葉でどういうことを伝えようとしていると考えられますか。これを説明した次の文の X ・ Y に入る適切な言葉を、ここより後の本文中からそれぞれ二字で抜き出して答えなさい。

自分が「 X している」と「 Y である」こと。

問4 ④ に入る言葉を、ここより前の本文中から八字以内で抜き出して答えなさい。

問5 ⑤ に入る言葉として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 派手な イ 古風な ウ 奇妙きみょうな エ 清潔な オ 斬新ざんしんな

問6 — 線部⑥「時代の追い風を受けて瞬またたく間に世界を席卷せっけんしていきます」とありますが、これを分かりやすく説明した次の文章の X ・ Y に入る内容を、それぞれ本文中の言葉を用い、指定字数以内で答えなさい。

X (五十文字以内) という世の中の状況により、チャンネルの考案するようなファッションがますます強く

求められるようになった。これに後押しされて、チャンネルの生み出すファッションは、 Y (二十文字以内) 。

問7

——線部⑦「ファッション業界は『シャネル以前』と『シャネル以後』で完全に二分されてしまいます」について、次に挙げるファッションが「シャネル以前」のものであれば「A」、「シャネル以後」のものであれば「B」を、「本文からは判別できないもの」であれば「C」を、解答欄に記入しなさい。

ア ポケットの付いた女性用の服

イ 裾を引きずって歩くような長いスカート

ウ 黒一色ではない喪服のワンピース

エ ゆったりとしたラインの動きやすい服

問8

——線部⑧「墓石」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 例えば「平和」という目に見えないイメージを、「白いハト」という具体的なもので表現することができます。この時、「白い

ハトは平和の象徴（シンボル）である。」と言うことができます。では、シャネルにとって、「墓石」は何を象徴していますか。

次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 地味で質素なもの。

イ 死者への哀悼の気持ち。

ウ その人の功績の偉大さ。

エ 行動を束縛するもの。

(2) 本文中の~~~~線部⑨～⑭の中から、「墓石」と類似したイメージの象徴として用いられているものを一つ選び、記号で答えなさい。

問9 — 線部⑨「時代が変われば『モード』も変わる。どんな『モード』もいつか遅れたものになる。だけど、『スタイル』だけは

変わらない」とはどういうことですか。この部分を解釈した内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 時代が変われば人々の価値観も変わる。どのような価値観もいつかは通用しなくなる。しかし、人々が常に生活に根付いた実用性と快適さを兼ね備えたファッションを求めることは、時代や文化を超えても変わらない。

イ 時代が変われば好まれるものも変わる。どのような趣味や好みも、いつかは廃れてしまう。しかし、女性たちが男性と区別されつつも、対等に暮らすことができる社会を求め、それが消費行動に影響することは変わらない。

ウ 時代が変われば流行のファッションも変わる。どのような流行もいつかは古めかしい物となる。しかし、シャネルのブランドが、働く女性が自分の思うままに振る舞えるようにということを念頭に置いているのは変わらない。

エ 時代が変わればおしゃれの在り方も変わる。どのようなおしゃれの在り方も、いつかは時代遅れになる。しかし、人々がスタイルの良さにあこがれ、流行のファッションが数十年後にまた戻ってくるという歴史は変わらない。

問10 — 線部⑩「世界を変えるルールとは、言葉で書き記されるばかりではないのです」とありますが、筆者がこのような説明を

加えるのはなぜですか。これを説明した次の文の□□に入れることができる言葉を一つ考え、漢字二字で答えなさい。

「世界を変えるルール」というと、大抵の読者は「□□」のような、言葉で示されるものを想定するであろうが、世界を変えるのはそのような類いのものに限らないことを、シャネルの例を通して訴えようとしているため。

【一】 次の【文章A】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章A】

あらすじ：家政婦である「私」は、天才数学者である「博士」のもとで働くこととなった。しかし、「博士」は過去に事故にあったことが原因で、記憶が八十分しか持たないという非常に深刻な問題を抱えている。

「君の誕生日は何月何日かね」

その日は夕食が済んでも博士はすぐ書斎へは行かず、後片付けをする私に気を遣って何か話題を探している様子だった。

「二月二十日です」

「ほう……」

博士はポテトサラダの中から人参だけを選び分け、残していた。私は食器を下げ、テーブルを拭いた。考えていない時でもやはり、テーブルは食べこぼしで汚れていた。もうすっかり春のはずなのに、日が暮れてから急に冷え込み、食堂の隅では石油ストーブが燃えていた。

「いつもあんなふうに、雑誌に論文を応募なさっているんですか？」

私は尋ねた。

「論文なんて大層なものじゃない。アマチュアの数学マニア向け雑誌に載っている問題を解いて、楽しんでいただけだよ。運がよければ、お金がもらえる。大富豪の数学愛好家が、賞金を出しているんだ」

① 博士は自分の身体をあちこち点検し、左ポケットの口に留めたメモに視線を落とした。「そうか……。今日『JOURNAL of

MATHEMATICS』のNo.37へ、証明を送ったのか……。うん、よしよし」

午前中、私が郵便局へ行ってから、とうに八十分以上が経っていた。

「あつ、しまった。申し訳ありません。速達にすべきでした。一番じゃないと賞金がもらえませんよね」

「いいや、速達になどする必要はない。もちろん、誰よりも早く真実に到達するのは大事だが、証明が美しくなければ台無しだ」

「証明に、②の区別なんてあるんですか」

「もちろんだ」

博士は立ち上がり、流しで洗い物をしている私の顔を覗き込むようにして断言した。

「本当に正しい証明は、一分の隙もない完全な強固さとしなやかさが、矛盾せず調和しているものなのだ。たとえ間違っではないな
くても、うるさくて汚くて癩に障る証明はいくらでもある。分かるかい？ なぜ星が美しいか、誰も説明できないのと同じように、
数学の美を表現するのも困難だがね」

これほどたくさん話し掛けてくれる博士を白けさせたくなくて、私は洗い物の手を止め、うなずいた。

「君の誕生日は二月二十日。220、実にチャームिंगな数字だ。そしてこれを見てほしい。僕が大学時代、超越数論に関する論
文で学長賞を獲った時にもらった賞品なんだが……」

博士は腕時計を外し、よく見えるよう私の目の前まで近付けた。彼のファッションセンスとは不釣り合いな、外国製の上等な時計
だった。

「まあ、立派な賞をお獲りになったんですね」

③「そんなことはどうでもよろしい。ここに刻んである数字が読めるかな」

文字盤の裏側に、学長賞 No.284」とあった。

「歴代284番めの栄誉、ということでしょうか」

「恐らくそうなんだろう。問題なのは284だ。さあ、皿なんか洗っている場合じゃない。220と284なんだよ」

博士は私のエプロンを引っ張り、食卓に座らせると、背広の内ポケットから4Bのちびた鉛筆を取り出し、折り込み広告の裏に二
つの数字を書いた。

なぜか微妙に離れていた。

「どう思う？」

私は濡れた手をエプロンで拭いながら、困った展開になりつつあるのを感じた。張り切っている博士の期待に応えたくはあったが、どう思うと言われても、どうして自分には、数学者を喜ばせるような答えが出せるわけがなかった。それらはただの、数字だった。

「ええ、そうですね……」

私はもじもじして口籠もった。

「どちらも三桁で……うん、何と言っているか……」

④ 数字じゃないでしょうか。大して変わらないですよ。例えばスーパーのお肉売場で、合挽き220グラム入りのパックと、284グラム入りのパックがあったとしても、私にとっては同じようなものです。どっちでもいいから、日付の新しい方を買いますよ。ぱっと見た感じ、雰囲気似ているんです。百の位は同じだし、どの位の数も

⑤ ですし……」

「鋭い観察だよ、君」

腕時計の革ベルトを揺らしながら力を込めて博士が誉めたので、かえって私は戸惑った。

「直感は大それだ。カワセミが一瞬光る背びれに反応して、川面へ急降下するように、直感で数字をつかむんだ」

博士は椅子を引き寄せ、二つの数字にもっと近付こうとした。博士は書斎と同じ、紙の匂いがした。

「約数は知っているね」

「はい、たぶん。昔、習ったことがあるような気が……」

「220は1で割り切れる。220でも割り切れる。余りは出ない。だから、1と220は220の約数だ。自然数は必ず、1と

⑥ を約数に持っている。さて、他には何で割れる？」

「2とか、10とか……」

「その通り。ちゃんと分かっているじゃないか。では、220と284の約数で、自分自身を除いたものを書いてみよう。こんなふうに」

220 : 1 2 4 5 10 11 20 22 44 55 110

142 71 4 2 1 : 284

博士の書く数字は丸みがあつて、心持ち皆みなうつむき加減だつた。柔らかい芯しんが粉こなになって数字の回りに散っていた。

「暗算で全部、約数がお分かりになるのですか？」

「いちいち計算しているわけじゃない。⑦ 君が使つたのと同じ直感を働かせているだけだ。さあ、次の段階へ進もう」

博士は記号を書き加えていった。

220 : 1 + 2 + 4 + 5 + 10 + 11 + 20 + 22 + 44 + 55 + 110 =

= 142 + 71 + 4 + 2 + 1 : 284

「計算してごらん。ゆっくりで、構わないから」

博士は私に鉛筆を手渡した。私は折り込み広告の余白に筆算した。⑧ 予感と優しさに満ちた口調だったので、テストされている気分にならずにすんだ。むしろ、さつきまで陥おちっていた困った展開を脱だつし、正しい答えを導き出すのは自分しかないのだ、という使命感がわいてくるのを感じた。

使命感がわいてくるのを感じた。

間違っていないかどうか、三回繰り返して確かめた。いつしか日が暮れ、夜が訪れようとしていた。時折流しで、洗いかけの食器から滴り落ちる水の音が聞こえた。博士は傍らでじっと私を見守っていた。

「はい、できました」

$$220 : 1 + 2 + 4 + 5 + 10 + 11 + 20 + 22 + 44 + 55 + 110 = \boxed{9}$$

$$\boxed{10} = 142 + 71 + 4 + 2 + 1 : 284$$

「正解だ。見てご覧、この素晴らしい一続きの数字の連なりを。220の約数の和は284。284の約数の和は220。友愛数だ。滅多に存在しない組合せだよ。フェルマーだってデカルトだって、一組ずつしか見つけられなかった。神の計らいを受けた絆で結ばれ合った数字なんだ。美しいと思わないかい？ 君の誕生日と、僕の手首に刻まれた数字が、これほど見事なチェーンでつながり合っているなんて」

私たちはただの広告の紙に、いつまでも視線を落としていた。⑪ 瞬く星を結んで夜空に星座を描くように、博士の書いた数字と、

私の書いた数字が、淀みない一つの流れとなって巡っている様を目で追い掛けている。

夜、家へ帰り、息子を寝かし付けてから、自分でも友愛数を探してみようと思い立った。博士が言う通り、本当に稀なペアなのかどうか確かめてみたかったし、約数を書き出して足算するだけなら、高校を途中でやめた自分にもできると考えたからだ。

しかしすぐに、いかに無謀な挑戦をしているかを悟った。博士が推奨するところの直感を頼りに、適当に数字を選ぶのだが、どれもこれも失敗だった。

はじめのうち偶数の方が可能性も高く、約数も探しやすい気がして、二桁の偶数ばかり試してみた。しばらくして、埒が明きそうにないので奇数にも範囲を広げ、がんばって三桁も導入してみたが進展はなかった。どの数字たちもよそよそしく背を向けるばかり

で、ほんの少し指先だけが触れ合うほどの組合せさえ、出現しそうになかった。

やはり、博士の言っていることは本当だった。私の誕生日と博士の手首は、広大な数の世界で苦勞の末に巡り合い、お互いが相手をすつぽり(注1)抱擁し合いながら、⑫を育んでいるのだ。

いつしか手元にある紙は好き勝手な数字で埋まり、余白もなくなっていた。稚拙ではあっても一応筋道の通った作業をしていたはずなのに、仕舞いには何が何だか分からなくなってきた。

ただ一つだけ、小さな発見をした。28の約数を足すと、28になった。

$$28 : 1 + 2 + 4 + 7 + 14 = 28$$

だから何がどうなるという訳ではない。私が試した中で、同じように約数の和が自分自身になる数は他に見当らなかったが、もしかしたらよくあるパターンなのかもしれない。発見などと大げさな言葉を使うのがいかに滑稽かも承知している。けれど仕方ないではないか。私は発見したのだから。

意味不明の乱雑さの中で、その一行だけは、何者かの意志によって貫かれたように、ぴんと張り詰めていた。触れると痛いほどに、力がみなぎっていた。

ベッドに入って時計を見ると、博士と二人で友愛数と戯れてから、とうに八十分以上が過ぎていた。友愛数など彼にとつては単純極まりない幼稚な事実だろうに、博士は今初めてその美しさに気づいたとでもいうかのような驚きに打たれていた。⑬王の前で跪く、

従者のようでもあった。

けれど博士はもう、私たちの間に隠れている友愛数の秘密を忘れてしまっただろう。220が、誰の何に由来する数字かも思い出せなくなっているだろう。⑭そう思うと、なかなか眠りに付けなかった。

(小川洋子『博士の愛した数式』〔新潮文庫〕より)

(注1) 抱擁ほうよう——親愛の情を込めて抱きしめること。

問1 ——線部①「博士は自分の身体をあちこち点検し」とありますが、この動作の説明として最も適切なものを、次のア～エの中

から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 雑誌をどこにしまったのかを探している。
- イ 自分の今後の予定を確認しようとしている。
- ウ 賞金をどこにしまっかを検討している。
- エ 自分の過去の行動を確認しようとしている。

問2

②に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 間違っている、間違っていない
- イ うるさい、うるさくない
- ウ 美しい、美しくない
- エ 正しい、正しくない

問3 — 線部③「そんなことはどうでもよろしい」とありますが、この発言の解釈として最も適切なものを、次のア～エの中から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自慢じまんしたい心を悟さとられないように興味がないふりをしている。

イ ほめられたことが恥ずかしいので照れ隠かくしをしている。

ウ 早く数字について話がしたいため話を本題もとに戻もどそうとしている。

エ 数字について話していたのに話題をそらされたことにいら立いらだっている。

問4

④

⑤

ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア 似通にった イ 不釣ふつり合あいな ウ 相反あする

エ 約数くわすう オ 偶数ぐすう カ 奇数

問5

⑥

に入る言葉を本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問6

— 線部⑦「君が使ったのと同じ直感を働かせているだけだ」とありますが、「博士」は「直感」をどのように働かせるものとしていきますか。次の文の空欄を埋める形で本文中から二十六字で探し、はじめの五字を答えなさい。

数字と向き合うときには、

ように直感を働かせるものである。

問7 — 線部⑧「予感と優しさに満ちた口調だった」とありますが、博士と私が感じている「予感」の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ふたつの数字に数学的な美しい結びつきが現れる予感。
- イ 自分なら必ず正解を導き出すことができるという予感。
- ウ ふたつの数字にまだ見ぬ新しい定理を発見できる予感。
- エ 正しい答えを出すのは自分しかないのだという予感。

問8 本文中の ⑨ ・ ⑩ に入る適切な数字をそれぞれ答えなさい。数字は「123」のように書くこと。

問9 — 線部⑪「瞬またく星を結んで夜空に星座を描くように、博士の書いた数字と、私の書いた数字が、淀みない一つの流れとなつて巡めぐっている様を目で追ひ掛けていた」という表現について、生徒が意見を発表しています。——線部への指摘として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生徒A「これは比喩表現であり、『～ように』という直喩ちよくゆを用いることで、数字のつながりに星座のイメージが重なってふたりの感動が美しく強調されているね」
- イ 生徒B「『私』の視点からは、一見つながりがあると思えないものにつながりを見出すという点において、星座と友愛数は共通している部分があると言えるね」
- ウ 生徒C「数列を『淀みない一つの流れ』と表現するのは隠喩いんゆ（暗喩あんゆ）であり、これによって数列の美しさに川の流れのよくなイメージを持たせているね」
- エ 生徒D「『目で追いかけていた』という表現は数式が流星のように流れる様を想起させるもので、流星が逃げていく様子を擬人法ぎじんぽうで表現したと言えるね」

問10 12 に入る言葉を本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問11 次の【文章B】は、【文章A】の筆者である小川洋子氏が書いたエッセーの一部です。【文章B】を読み、あとの(1)～(2)の問いに答えなさい。

【文章B】

それともう一つ意外だったのは、数学者たちがとても謙虚だけんきょということでした。

たとえば、「三角形の内角の和は一八〇度である。それは人間がそういうふうにならなければならないし、人間の心が感じるからでもない。人間が生まれる前から、ずうっと世界はそういうふうにならなければならない。ということ、人間よりもっと偉大な何者かいだい」(注1) サムシング・グレイトによって、三角形の内角の和はどんなに小さな三角形も巨大な三角形も、すべて一八〇度になった。だから数学者は、偉大な何者かが世界のあちらこちらに隠かくしたそういう秘密を、洞窟どうくつから宝石を掘り返すようにして見つけ出す、それが仕事だ」というふうに考えているんです。つまりそういう目に見えない何か偉大なものに対する謙虚な気持ち、跪ひざまずく心を持って、世界の有り様を追求しているのです。

よくこういえることが言われると思います。「相対性理論は、アインシュタインが発見しなくても、何年後かに別な人が発見しただろう。しかし、モーツアルトの音楽は彼が居なければ決して生まれなかった」と。つまり、フェルマーの定理は、一九九四年にイギリスのアンドリュー・ワイルズという数学者によって証明されたが、ワイルズが証明できなくてもいざ誰か他の天才が証明できたしかし、ピカソの絵はピカソにしか描けない、ということでしょうか。

このように、数学者を含めた科学者の人たちが、ある特別な謙虚さをもって自分の仕事に当たっていることが、大変魅力的な点でした。

(小川洋子『物語の役割』(ちくまプリマー新書)より)

(注1) サムシング・グレイト——直前の「人間よりもっと偉大な何者か」を英訳したもの。

(1) 【文章A】の先の展開で「博士」は、数学の定理は「発見」するものであり、「発明」するものではないという風に述べています。【文章B】を参考にして、「発見」と「発明」はどのように違うのかを説明した次の文の空欄 X、 Y にあてはまる言葉をそれぞれ二十字以内で答えなさい。

発見は X ことだが、発明は Y ことであるという違い。

(2) — 線部⑬ 「王の前で跪ひざまずく、従者のようでもあった」とありますが、博士がこのような姿勢で数学に向き合っている理由を、【文章B】を参考にして四十文字以内で答えなさい。

問12 — 線部⑭ 「そう思うと、なかなか眠りに付けなかった」とありますが、この時の「私」の心情として最も適切なものを、

次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お互いをもつ数字に類いまれなる結びつきがあることを発見し、そのおかげで自分ひとりでも新しい結びつきを発見できたにもかかわらず、博士が覚えていないために新しい結びつきの発見を報告できないことに対し、もどかしさとあせりを感じている。

イ せっかくお互いをもつ数字に奇跡きせき的な結びつきがあることを確認できたのに、博士の記憶からその出来事が消え去ってしまったことによつて互いの数字の結びつきも絶たれてしまったという事実じじつに、むなしさとやりきれなさを感じている。

ウ お互いをもつ数字に美しい神秘的な結びつきがあることへの感動を共にして、互いの数字は今も結びついていながらもかわらず、今となつてはそのことを覚えているは自分だけであるという事実じじつに、さみしさと切なさを感じている。

エ お互いをもつ数字に驚愕きょうがくの結びつきがあることへの感動を共にして、ふたりの美しいつながりを確認しあつたにもかかわらず、今となつてはそのことを覚えているのは自分だけであるという事実じじつに、仕方ないとは思いながらも、不満ふまんと憤いらいりを感じている。

三

次の各問いに答えなさい。

問1

次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に改めなさい。

- ① キセツの変わり目には、体調に気をつける。
- ② フンパツして高級万年筆をプレゼントした。
- ③ ジツシツ賃金の推移が注目されている。
- ④ 温暖化についてセンモンカの意見をたずねる。
- ⑤ ゼイリツの計算が複雑化すると商売が立ちゆかない。

問2

次の①～⑤の□にあてはまる数字を漢字一字で答え、四字熟語を完成させなさい。

- ① □ 差万別
- ② 三寒 □ 温
- ③ □ 念発起
- ④ □ 時中
- ⑤ 二束 □ 文

以下余白

